

締結式には、同社側から小山社長や菊池和宏執行役員営業部長ら、町側から高橋町長や岩淵和弘副町長らが出席した。

高橋町長はいさつで「近年、毎年のように全国各地で災害が発生している。災害に備えた防災力の強化は、町にとって喫緊の課題。大規模災害に対し、

自治体単独での対策では限界がある。民間企業の力が不可欠だ。協定締結により、石綿飛散による町民への健康被害をいち早く防ぶことができ、二次災害の被害防止に寄与するだろう」と、今回の協定締結による効果に期待を示した。

小山社長は「災害が発生した時、損壊した建築物などからのアスベストの飛散が懸念される。協定締結により、災害時のアスベストの測定調査を速やかに、かつ確実に行うことで、健康被害防止の役割が期待できる。今後

も安全・安心・健康な環境を支える企業として、地域社会に貢献していきたい」と抱負を述べた。

小山社長は「災害が発生した時、損壊した建築物などからのアスベストの飛散が懸念される。協定締結により、災害時のアスベストの測定調査を速やかに、かつ確実にを行うことで、健康被害防止の役割が期待できる。今後

メリットや課題を学ぶ

県建築士事務所協会 BIM活用へ講習会

県建築士事務所協会（佐々木章会長）は23日、建築設計業務におけるBIM活用講習会を実施した。会場とリモート合わせて約40人が受講。BIM導入の必要性とメリットなどを、具体的な導入事例などを通して学んだ。

取締役の吉田浩司氏が「BIM活用のための連携策」と題してオンラインで講演した。吉田氏は小規模設計事務所におけるBIMの活用事例を説明。事務所の改装工事で点群データを取り込み、1日で改装計画を動画付き

で提案した事例などを紹介した。吉田氏は「私たちの仕事は図面を描くことではなく、良い建物と良い空間を提供すること」と述べ、図面への固執がBIMの導入や活用を阻害すると問題提起。発注者のBIMに対するリテラシー向

上の必要性も説き「建築士事務所協会など業界団体が、発注者の啓発に取り組みすることも必要」と訴えた。当日は福井コンピュータアーキテクトの中村力氏が「BIMの概要と戦略的活用へ向けた進め方」、グラフィソフトジャパンの前田和弘氏が「設計者から見たBIMの導入効果」をテーマに、各社

のBIMソフトの概要や活用方法、BIM導入における諸課題など

度はBIMソフトの体験講習会なども実施する。



県建築士事務所協会のBIM活用講習会
を紹介した。

この講習会は、国土交通省がBIM/CIMの原則化を23年度に前倒しするなど、本県においても急速に普及が進んでいることから、BIMのメリットや活用事例等を紹介することでBIMに対する懸念を解消し、小規模事業者の理解促進を図ることを目指して実施しているもの。22年度はBIMソフトの体験講習会なども実施する。